

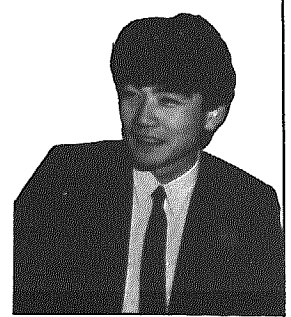
町づくりには青年の力とアイデアを

町長と青年が語る未来の黒崎町

86
新春座談会



笠原 範夫さん
(鳥原 35歳)
稲作、露地野菜生産
に取り組む青年農業者



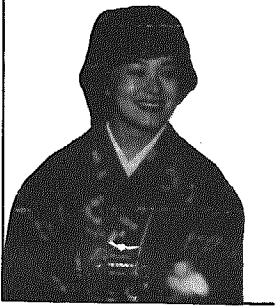
五十嵐公栄さん
(中学通り) 24歳
将来を嘱望される若
手経営者。五十嵐電気店



山崎比佐子さん
(善久 32歳)
お二人のお子さんをもつ
ヤングミセス



青木太一郎町長
青年の瞳が輝く町づく
りを、そして21世紀
には黒崎市が目標



司会：大河原千佳子
(テレビ新潟アナウンサー)

農業にも配慮した開発を

司会 町長への注文を素直に話していただきたいのですが。
笠原 町長はいきつの中でよく企業誘致、工業団地の造成と言いますが、それはわたしたちの生活基盤の農地がつぶれることになるわけで心配しているのですが。
町長 黒崎町に約一千六百町歩の農地があり、この土地をいかに利用するか一つのポイントだと思います。二十一世紀には一五から二〇%くらいの土地を活用したいのです。それとともに競争力のある農産物を育てていきたいのです。開発は地域のコンセンサスを得ながらしていかなければなりません。
笠原 今までは北部の住宅・工業地帯

黒崎町に、大きな変革の波が押し寄せています。どうしたら、もつと住みやすい町に。新春にあたり、青木町長と青年二人に語ってもらいました。
(この模様は一月四日テレビ放送されました)

目標、来世紀は黒崎市

司会 今日町長を囲んで二十一世紀の黒崎町を担っていく青年たちとお話を進めていきたいと思っています。
町長 本年も昨年同様二万二千町民のご理解とご支援を得て、一生懸命町づくりに励みたいと思います。昨年の国勢調査で黒崎町の人口の伸び率は八七%で県下第一位でした。黒崎町は新潟市の表玄関といいますが、県庁の川向かいの町といいますが、高速交通時代の要衝になってきました。新潟市の衛星都市という現象もあります。その反面、古くから農業、商工業の町であります。二十一世紀には黒崎市を目指した新しい町づくりを皆さんと考え、参加していただきたいと考えています。
司会 黒崎町の印象はいかがでしょうか。山崎さんは転入されたそうですが。山崎 結婚して黒崎町にきました。もう七年半になりますが、たいへん交通の便がよい所と思います。新潟市は近いし、インターはあります。
町長 農業は黒崎町の基幹産業であり、特産物を生産していますから、農地は残していきます。その中で、離農していく人もいるわけで、その土地を有効利用できればと思うのです。
町長 農業は黒崎町の基幹産業であり、特産物を生産していますから、農地は残していきます。その中で、離農していく人もいるわけで、その土地を有効利用できればと思うのです。

人口増に合う学校施設に

司会 新潟市の近くにこんなに田園地帯が広がっているのか、と初めて町にきたとき驚いたんですが、山崎さんはお子さんを育てていて感じませんか。
山崎 ええ。市内の子供たちに比べるとのびのびしていると感じます。
司会 人口が増え、最近小学校が狭くなったということがあるのですか。
町長 山田小学校はもう満杯で、早急に解決しなければならぬ問題になっています。中学校は今二十七学級で、今年二十八学級になります。近い将来第二中学校を考えなければならぬ状態と認識しています。
山崎 なるべくならあまり大きい学校よりも先生の目の届くくらいの学校の方が生徒もいんじゃないかと思うのですが。
町長 ええ。大野小学校とか黒崎中学校はもうマンモス校ですから、十五か

夜間人口も二万二千人に

司会 五十嵐さんは自営業ということですが、町に一日中いるわけですか。
五十嵐 家電製品の販売をしています。各家庭を回るんですが、昼間は仕事に行っている家が多くて、夕方を中心に、地元で働ける場所が少ないので、仕事は朝早く出て夜遅く帰ってきます。
町長 そうなんです。二万二千の人口のうち昼間は半分くらいしかいません。ほかの半分は新潟市をはじめよそに働きに行っているか、学校に行っているか。ですから新潟市に隣接していることと道路網を生かして企業誘致をしたいわけです。昼と夜の人口が同じような町、そうすれば地元で商工業の振興につながり、大野町の商店街も活性化すると思っています。
五十嵐 電気製品もよく売れると。(笑)
司会 山崎さんは買物は新潟市ですか。
山崎 いえ。町の近くのスーパーです。勤めから帰って今日はどこで買おうかと思案して出かけます。
町長 ぜひ地元を利用してください。

黒崎茶豆東京でも高評価

司会 笠原さんは黒崎の枝豆を作っているらしいんですが、なかなか行政が追いつかないんです。今、進めている総合計画で小、中学校の計画を立てていきたいと思っています。
町長 たしかにスポーツ施設や若者が集まる施設、遊び場が少ないんです。将来的にはヤングフェスティバルというか、若人の祭典、そういうイベントを若者がやってもらえればと期待しています。黒崎町は青年の町なんだと若者に頑張ってもらいたいのです。
山崎 休日には交通公園とか水道公園に行くんです。黒崎町にも大きな公園が出来ればと思います。
町長 総合計画の中でセントラルパークという中央公園的な公園を考えています。黒崎町だけでなく新潟市をはじめ道路網を活用して関東経済圏の人たちからおいでいただくような施設。例えば緒立をはじめ大野とか親鸞上人の焼酎などの観光資源をいかした公園、プラス観光のコミュニケーション都市を構想しています。二十一世紀は確実に週休二日制です。暇と金をいかにアイデアを皆さんから出してほしいのです。

イベントを若者が企画

司会 五十嵐さんはよくお友達と会ったりするんですか。
五十嵐 よく飲むんですけどね。町には運動したり遊んだりする施設が少ないのでほかから集まってこないし、日曜日には出て行ってしまおう。若者が集まる施設がほしいですね。
町長 たしかにスポーツ施設や若者が集まる施設、遊び場が少ないんです。将来的にはヤングフェスティバルというか、若人の祭典、そういうイベントを若者がやってもらえればと期待しています。黒崎町は青年の町なんだと若者に頑張ってもらいたいのです。
山崎 休日には交通公園とか水道公園に行くんです。黒崎町にも大きな公園が出来ればと思います。
町長 総合計画の中でセントラルパークという中央公園的な公園を考えています。黒崎町だけでなく新潟市をはじめ道路網を活用して関東経済圏の人たちからおいでいただくような施設。例えば緒立をはじめ大野とか親鸞上人の焼酎などの観光資源をいかした公園、プラス観光のコミュニケーション都市を構想しています。二十一世紀は確実に週休二日制です。暇と金をいかにアイデアを皆さんから出してほしいのです。

町民が参加する町づくり

司会 最後に今年の抱負をお話してください。
山崎 やはり子供がのびのび育ってほしい。そういう行政をしてほしいと思います。
五十嵐 若い仲間を増やして、何か若者で企画してみたいですね。総合体育館も活用していきたいですね。
町長 今年の七月に農村環境改善センターが完成しますのでどんどん使ってください。
笠原 昨日、小学校四年生の長男が「僕農業するよ」と言うんです。たいへんうれしくて、子供が農業をたくなる環境を精一杯つくりたいと思います。
町長 五十嵐さんのように自助努力をして商工業を切り開いていく青年を育成したい。山崎さんはお二人のお子さんがいらつしやる。町づくりは人づくり、教育に力を入れたい。笠原さんの言うように枝豆を先頭に農業も発展させたい。最初、二十一世紀には黒崎町を指すことと遠大なことを申しましたが、それには青年はもちろん多くの人から喜んで参加してもらえら町づくりをしなければと思っています。今年も町民のかたから力とアイデアを借りたいと思っています。よろしくお願ひします。

